



大井川鐵道の SL 運転技術が日光・鬼怒川へ

鉄道産業文化遺産の保存・技術継承のため、東武鉄道への機関士教育協力を開始

大井川鐵道(本社:静岡県島田市、代表取締役:前田忍)は 2017 年度に蒸気機関車(SL)の復活運転を目指す東武鐵道(本社:東京都墨田区)から 2 名の人員を受け入れ、SL 乗務員(機関士)養成に向けた教育協力を 2016 年 1 月より開始しました。

当社が実施する教育内容

- 学科教育 (安全教育、蒸気機関車の構造など)
- 技能教育 (制動機操作、非常時の措置、SL の取り扱い方など)

大井川鐵道は静岡県の小さな鐵道会社ではありますが、SL の動態保存に関してはパイオニアであり、運転・整備双方の技術が極めて高いレベルにあることを従前よりご評価頂いています。昨年 9 月より当社は新経営体制に代わり、SL 運転文化が日本全体へ広まるようソーシャルメディアによる情報発信をスタートすると共に、社内はもちろん他社への技術伝承にも前向きに取り組んでおります。

今回、東武鐵道が日光・鬼怒川エリアでの SL 運転を始めるとのことで、日本の鐵道産業文化遺産の保存・技術継承という観点から乗務員養成を受け入れさせて頂きました。特に運転を予定している鬼怒川線につきましては、平成 27 年 9 月の豪雨により被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げるとともに、間接的にはありますが、今回の乗務員養成が鬼怒川エリアの地域復興に少しでもお役に立てればと考えております。

大井川鐵道は今後も SL 動態保存技術を向上させ、鐵道産業文化遺産の保存・技術継承に寄与してまいります。当社の SL 運転に関わる概略は下記のとおりです。

大井川鐵道の蒸気機関車運行実績

SL 運転区間	大井川本線 新金谷(島田市)―千頭(川根本町) 距離:37.2 キロ	
SL 年間走行日数	339 日 ※2015 年実績	
在籍乗務員数	機関士 25 名	※甲種蒸気車運転免許保有者(H28.1 時点)
保有車両数	動態保存: 4 両	C11 227、C56 44、C10 8、C11 190
	静態保存: 5 両	C12 164、9600、いずも、コッペル 1275、C12 208
SL 動態復元実績	6 両	C56 44、C12 164、C11 312、C10 8、C11 190、2109
年間平均 SL 乗客数	約 26 万人	※直近 10 年間の平均



大井川本線を走る SL かわね路号



2014 年よりアジア初の「きかんしゃトーマス」を運転



日本の鉄道における SL の歴史

1872年10月14日、新橋～横浜において日本の鉄道は産声をあげ、1940年代～1950年代まで蒸気機関車はその中心的車両でした。しかし、先の大戦後、高度経済成長期に入ると効率化がテーマとなり、当時の国鉄など各鉄道会社は動力近代化の名のもと、SLの全廃「無煙化政策」を推し進めることとなります。そして1975年12月14日、北海道の室蘭本線を最後にすべてのSLが引退しました。

1976年7月 SL 保存運転を本格的に開始

当社では1949年12月に電化が完了し国鉄よりも一足早く無煙化運転の実施に踏み切ったものの、1976年7月9日金谷～千頭(39.5キロ)において本格的なSL旅客動態保存運転を開始しました。日本の鉄道史においてSLが旅客列車を牽引することのない空白期間がおおよそ6ヶ月間発生したものの、この空白期間に終止符を打ったのが当社であり、これが「大井川鐵道がSL保存運転のパイオニア」であると言われるゆえんです。



1976年7月9日、テープカット



1番列車が千頭駅に到着した様子

SL 復活当初は国鉄技術者の協力を仰ぐ

SL 運転を復活させた1970年代には電化以前から在籍するベテラン職員が多数在籍していたものの、約25年間のSL空白期間が復活運転において課題となります。そこで当社は国鉄でSLの運転・整備に携わっていた方に協力を仰ぎ、運転・整備ノウハウを再度学びなおします。

当初は貨物・旅客輸送の減少をカバーすべく開始したSL運転でしたが、時間が経つにつれ当社の経営の柱になっていきます。1977年1月、当時の国鉄総裁が大井川鐵道を訪問。これが1979年8月の山口線でのSL運転復活につながります。この時点でSLといえば大井川鐵道というイメージが定着したと言えます。

車両整備を内製化。引退した車両の動態復元も

当社は車両整備も自社設備・人材で賄い、年間300日以上営業運転を毎年継続しています。また引退後のSLを再度運転可能な状態に復元する「動態復元」においてもこれまで計6両実施。たとえば、1940年製造のC11形190号機は2年の歳月をかけて動態復元しました。今後も高い整備技術を活かし、動態復元を行ってまいります。



御前崎港に到着したC11型190号機



復活したC11型190号機

新たな試み:40年で培った動態保存ノウハウが実現した世界的人気キャラクターの招致

2014年7月より、アジアで初の「きかんしゃトーマス」運転を開始。これまでSLに馴染みのなかった若いファミリー層を中心に、2015年は年間10万人以上のご乗車を頂きました。尚、本年も6月11日(土)より77日間・合計174本の運転が決定しています。